

七月六日及び七月三日の新聞記事を読んで
みんなで「豊かな海づくり」せんまいけ

射水市立大畷山小学校 桑原 廣太郎

ぼくは、五年生の時に、「豊かな海づくり
について学びました。「海づくり」の方法の
一つとして、稚魚を育てることを学びました
が、それ以外に小学生のぼくたちにもできる
ことは何かをずっと考えていました。まず、
家庭から、ごみを川などに流さないようにす
ること。そして、山、森、川などの自然を保
護すること。ぼくは、海をきれいにするこ
とが、「海づくり」につながるのではないかと
考え、海岸の清掃活動に参加しました。

今秋に、ぼくが住んでいる射水市で開催さ
れる「全国豊かな海づくり大会」を前に、富
山県内の「森、川、海」をリレーしながら清
掃開始の日でした。海岸で、早朝から地元の
人たちが小中学生ら七百人とともに、一生け
ん命にごみを拾いました。そこで、気が付い
たことは、山や森から流れてきた木くずや木



の枝などのごみは確かにありました。が、ぼくが、思っていたよりは「量」が少なかったこととです。なぜ少なかったか考えながら家に帰ると、答えは二日前の新聞にありました。来春、富山県で、世界の環境大臣が集まって「環境サミット」が開催されます。「世界のエコ都市」「環境王国」と言われる富山県ではこれまでレジ袋削減、コンパクトシティづくり、環境教育、自然保護活動などの環境に関する富山県の人たちの意識が高く、みんなで協力しあって、日頃から「森・川・海」で清掃活動をしていきます。このおかげで、ぼくが清掃に行った「海」は、ごみの量が少なく、きれいだったのです。つまり、富山県の人たちみんなが、「森・川・海」で清掃活動を行ってきたことが、豊かな「海づくり」につながっているのです。だから、富山湾でとれる魚、特に、シロエビやブリなどは、とてもおいしく、魚の種類も豊富なのだと思います。今回、ぼくは、初めて「森・川・海」の清



掃活動に参加し、富山湾でとれる魚がなせお
いしいのか、そして、なぜ種類も豊富なのか
という理由が分かりました。

富山県の人たちみんなのでづくりあげている
「豊かな海」富山湾で育った魚だからこえ、
いつ食べてもとてもおいしく、ぼくも幼い時
から大好きです。そんな富山湾でとれるおい
しい魚を、今秋開催される「豊かな海づくり
大会」で、全国の人たちへ、そして、来春開
催される「環境サミット」で、世界の人たち
に届けることができると良いと思います。

